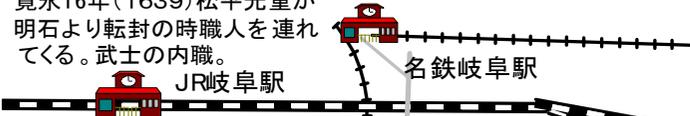


街道を歩く

加納天満宮

文安2年(1445)斎藤利永が沓井城を築いたとき守護神として勧請した。道三が稲葉城を築いたので廃城となったが住民達により護られる。家康の加納城築城の時に現在地に遷座。傘祖頌徳碑(和傘)寛永16年(1639)松平光重が明石より転封の時職人を連れてくる。武士の内職。



二文字屋(うなぎ料理) 町年寄り、旅籠屋、飛脚御使者宿 左甚五郎が彫ったという。欄間が残されているという。



脇本陣(森家)朝鮮式灯籠

中山道: 新加納西 一加納宿

加納宿 (鶴沼宿より4里10町) 侍屋敷と宿場町が渾然一体化、岐阜、名古屋伊勢に通じる分岐点であった。町並みは21町30間、大手前を中心に西へ本町その北側に裏町として天神町、大手前の北広江町から東へ新町、柳町、安良町、南に下って八幡町と他の宿場と違って一筋でない。本陣、脇本陣、問屋は本町にあった、幕末に当分本陣が設けられ本陣が2つとなった。天保14年(1843)本陣1、脇本陣1旅籠31軒街並み2km。



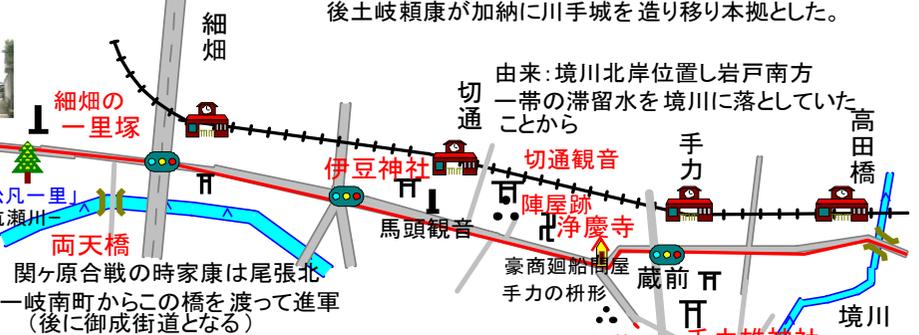
切通観音と陣屋跡

専福寺

元亀元年9月信長が石山本願寺を攻撃した際本願寺法主顕如は各地の門末に末寺の蜂起を促した。美濃においても多くの寺院が呼応した。専福寺の僧忍悟が石山の合戦で戦死し顕如より追悼の御書を給ったとされる。石山本願寺に加担することを禁じた信長の朱印状も残されている。



地藏堂と道しるべ 伊勢名古屋ちかみち笠松凡一里 その昔 笠松湊-桑名-杭瀬川-赤坂へ



関ヶ原合戦の時家康は尾張北一岐南町からこの橋を渡って進軍(後に御成街道となる)



鏡岩の碑と道標

文政の頃、鏡岩浜之助という力士がおりその二代目鏡岩は父の名声のもとで力士となったが素行が大変悪かった。父の13回忌に立派な石碑をたて供養した名僧の教えに改心し加納に茶所を設け旅人に茶を汲んだ。また自分の木像をつくり”ぶたれ坊”名付け自分の身代わりとしてぶつてもらい罪の消えるのを願った。



お茶壺道中と事件

“スィスイ、スッコバシ胡麻味噌スイ……”江戸時代子供までも恐れられていたお茶壺の通行は寛永9年(1632)宇治より將軍家にお茶の献上が始まり、毎年3個の茶壺が上りは東海道、下りは中山道通行とされていた。元禄3年(1690)から上下とも東海道となる寛文5年(1665)加納宿の久運寺が茶壺の本陣に指定されたが住職の玉葉和尚が断り問題となる代わりの和尚で役目は果たす、玉葉は本寺正眼寺のとりなしで許される。